

平成18年度管理栄養士国家試験100%合格に対する 生活科学部栄養学科全教員の指導について

長 坂 祐 二

生活科学部長（栄養学科長兼務）

1. はじめに

本学栄養学科は、昭和25年度に設置した山口女子短期大学家政学科を前身とし、以来、山口女子大学家政学部食物栄養学科（昭和50年度）、山口女子大学家政学部栄養学科（平成3年度）、山口県立大学家政学部栄養学科（平成8年度）、山口県立大学生活科学部栄養学科（平成10年度）という変遷を経て、平成19年度からは看護栄養学部栄養学科として新たなスタートを切った。

昭和26年には、栄養士養成施設の指定を、昭和51年には、管理栄養士養成施設の指定を受け、今日まで県内外で活躍する多くの栄養士・管理栄養士を輩出してきた。

管理栄養士の業務は、従来、栄養士との関係が必ずしも明確ではなかったが、少子高齢化、生活習慣病の増加、要介護者の増加などの社会問題を背景に、わが国の栄養・食生活の問題も複雑・多様化してきたことから、疾病構造の変化に対応した予防と治療を目的とした栄養管理や栄養指導を行う、より高度な知識と技能を有する管理栄養士を養成することが求められるようになった。

このような情勢の下で、平成13年に栄養士法が改正され、管理栄養士を「食品」から「人」を対象とする栄養専門職

種へと位置づけ、栄養評価・判定に基づく高度な専門知識・技能を有する者と定義された。平成14年度からは栄養士法改正に伴う新しいカリキュラムに従った教育内容で栄養士養成施設・管理栄養士養成施設の指定を改めて受けた。

2. 管理栄養士国家試験のしくみ

管理栄養士国家試験の受験資格は、管理栄養士養成施設を卒業することにより得ることができるが、栄養士養成施設

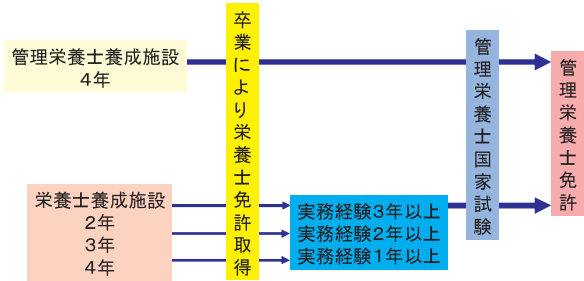


図1 管理栄養士国家試験のしくみ

表1 管理栄養士国家試験の新旧試験科目の比較

旧（150問）	新（200問）全科目必修
管理栄養士養成施設の免除科目（6科目70問） 解剖生理学（10問）、病理学（5問）、生化学（12問）、栄養学（20問）、食品学（18問）、健康管理概論（5問）	社会・環境と健康（20問） 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（30問） 食べ物と健康（25問）
必修科目（7科目80問） 栄養指導論（14問） 臨床栄養学（15問） 公衆栄養学（13問） 給食管理（調理学を含む）（15問） 公衆衛生学（13問） 食品衛生学（5問） 食品加工学（5問）	基礎栄養学（14問） 応用栄養学（16問） 栄養教育論（15問） 臨床栄養学（30問） 公衆栄養学（20問） 給食経営管理論（20問） 応用力試験（10問）

設を卒業した場合は、修業年限（2～4年）に応じて1～3年以上の実務経験が必要となる。（図1）

栄養士法の改正に伴い、国家試験出題基準も見直され、平成18年度の第20回管理栄養士国家試験からは新しいカリキュラム、新しい国家試験出題基準のもとで実施されている。（表1）

新旧国家試験の主な違いは、出題数が150問から200問に増加したことに加えて、管理栄養士養成施設に認められていた免除科目が廃止されたことである。旧国家試験では、免除科目の6科目は1～2年生で学ぶ専門基礎科目が中心であり、必修科目7科目は3～4年で学ぶ専門科目が中心になることから、管理栄養士養成施設卒業者に有利な状況であったが、平成18年からは同じ条件での受験となった。また、全200問中10問に応用力試験が導入されるなど、従来とは出題傾向が変わり、難易度が上昇することが予想された。

3. 管理栄養士国家試験の合格率

本学栄養学科の国家試験合格率は管理栄養士養成課程の指定を受けて以来、平成14年度まで100%の合格率を維持してきたが、平成15年度には79.4%、平成16年度には69%と2年連続で不合格者を出した。（図2）

この2年間は全国の合格率も10%台に低下し、難易度が上昇した影響も考えられるが、従来通りの指導体制では、新カリキュラムのもとで行われる国家試験において高い合格率を維持することは困難になると考え、国家試験対策のための取り組みを見直し、平成17年度より、4年生のチューター教員を中心として、年間を通じた計画を立てて実行する体制を構築した。

その結果、国家試験合格率は、平成17年には97.2%に回復し、平成18年、19年は100%を達成した。平成18年度より、管理栄養士養成施設ごとの合格率が公表されるようになったが、2年間連続合格率100%を達成した養成施設は全国で本学の栄養学科のみであった。

4. 管理栄養士国家試験の受験対策

4年生チューター教員が中心になって、4月に年間スケジュールを立案する。（図3）

受験対策の概要を以下に示す。

(1) 模擬試験

3回の業者模試を含めて、年間5～6回の模擬試験を行っている。模試終了後、試験問題と問題ごとの正答率を全教員が回覧し、学生が苦手とする項目や分野を明らかにして補習授業などで重点的に指導している。平成18

年度模擬試験の得点率の推移を図4示す。

(2) 基礎科目の補習

4年生の前期には専門基礎分野の科目（「生化学」、「人体構造と機能及び疾病の成り立ち」、「基礎栄養学」など）を中心に補習を行っている。

(3) 自己学習の強化

模擬試験の成績下位者に対して、個別の学習指導やグループによる勉強会の実施を支援している。

(4) 直前対策講座

2月には全教員による直前対策講座を実施している。平成19年2月には、全教員が参加して7日間、19コマの対策講座を実施した。

(5) Webを利用した教材提供

ホームページ（<http://www.c-able.ne.jp/~nagasaka/>）やブログ（<http://diet2005.exblog.jp/>）を活用し、国家試験対策のための整理ノートや国家試験問題の解説を提供している。ブログは一般にも公開しているおり、1日に150～200件程度のアクセスがある。

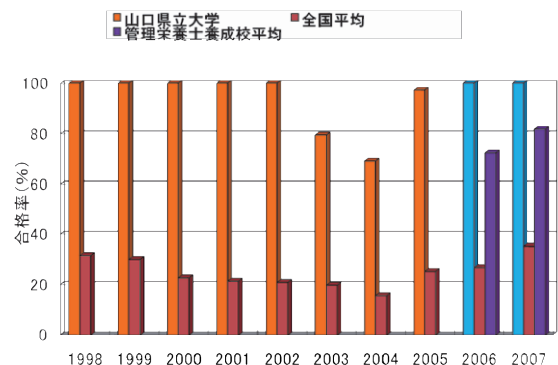


図2 管理栄養士国家試験合格率の推移

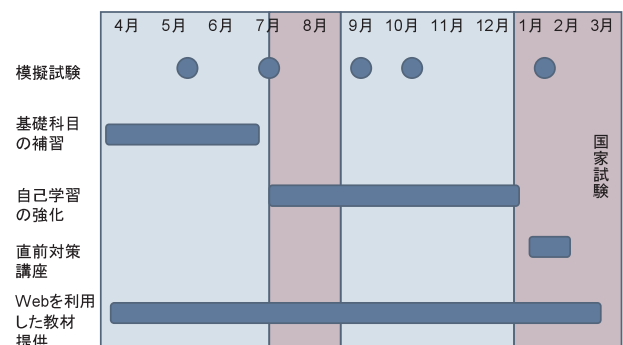


図3 受験対策の年間スケジュール

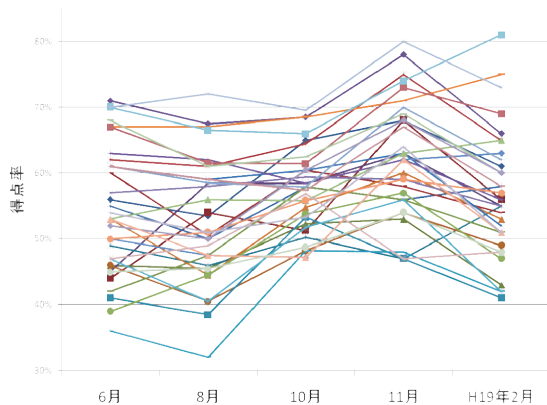


図4 平成18年度模擬試験得点率の推移

5. おわりに

管理栄養士養成施設は、現在全国で100校を超え、今後本学の志願者数が減少していくことが予想される中、管理栄養士国家試験合格率高く維持することは、本学栄養学科の存在意義を示し、優秀な学生を受け入れていくために不可欠であると考えます。

栄養学科は、「栄養の専門職としての知識、技術と資格を備え、保健、医療、福祉等にかかわる職種の人々との適切な協働、連携のもとに地域の人々の健康の増進、疾病の予防、療養上の支援のために、その能力を発揮できる人材を育成すること」を目的として、平成19年度より看護栄養学部栄養学科として新たなスタートを切った。この目的を達成するためにカリキュラムを全面的に見直し、社会福祉学科、看護学科、栄養学科の3学科の学生が協力して学ぶ授業を導入した。新しいカリキュラムをより有効なものにするために、関連する専門科目間の連携を強めるシラバス検討部会を組織し、具体的な取組も始めている。

今後、管理栄養士国家試験合格率だけでなく、教育内容の充実を図り、学生の学力、実践力を向上させ、一人でも多くの優秀な管理栄養士を養成するために、学科全体で学生の教育に取り組んでいく姿勢を持続していきたい。

国家試験合格にもっとも必要なことは、学生自身が管理栄養士になりたいという強い動機を持つことと、最後まであきらめずに勉強を続けることである。教員ができることは、受験に必要な知識を与えることではなく、学生のモチベーションを高め、維持するために必要なことは何でもするという体制をとることであると考えます。